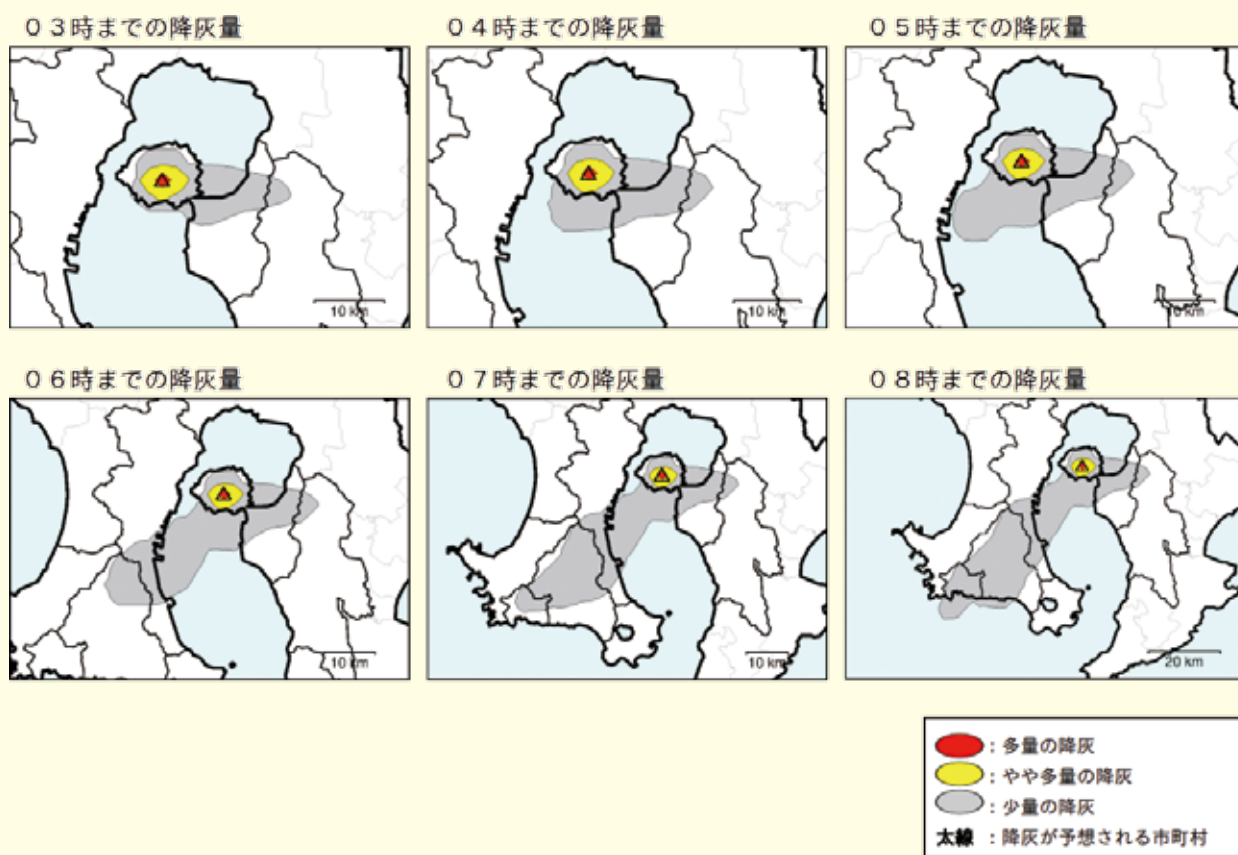


降灰予報の高度化について

火山が噴火すると、噴出した火山灰が上空の風に運ばれて広い範囲に降下する（これを「降灰」と呼ぶ）。この「降灰」は、喘息の症状悪化などの健康被害を始め、道路交通においても、視界不良や路面悪化をもたらすなど、社会生活に大きな影響を及ぼす。

この「降灰」について、気象庁では、平成20年3月から「降灰予報」を発表している。噴火のおそれがある場合には「降灰予報（定時）」を、また、噴火が発生した場合、即時的には「降灰予報（速報）」を、その後、噴火の観測情報を用いてより精度高く計算した「降灰予報（詳細）」を発表し、それぞれ、時間ごとの降灰の分布と量（社会的影響に応じた3段階の階級）の予想を地図上で分かりやすく示している。



降灰予報（詳細）（桜島）の例

降灰予報を噴火に備えた準備や噴火後の防災対応に活用することで、道路交通等における降灰による被害の軽減につなげることができる。降灰予報は、気象庁のホームページ（<https://www.jma.go.jp/jp/ashfall/index.html>）においても提供しているので、活用いただきたい。

降灰予報における「降灰量階級表」

名称	表現例			影響ととるべき行動		その他の影響
	厚さ キーワード	イメージ※1		人	道路	
		路面	視界			
多量	1mm 以上 【外出を控える】	完全に覆われる 	視界不良となる 	外出を控える 慢性の喘息や慢性閉塞性肺疾患(肺気腫など)が悪化し健康な人でも目・鼻・のど・呼吸器などの異常を訴える人が出始める	運転を控える 降ってくる火山灰や積もった火山灰をまきあげて視界不良となり、通行規制や速度制限等の影響が生じる	がけさへの火山灰付着による停電発生や上水道の水質低下及び給水停止のおそれがある
やや多量	0.1mm≦厚さ<1mm 【注意】	白線が見えにくい 	明らかに降っている 	マスク等で防護 喘息患者や呼吸器疾患を持つ人は症状悪化のおそれがある	徐行運転する 短時間で強く降る場合は視界不良の恐れがある 道路の白線が見えなくなるおそれがある(およそ0.1～0.2mmで鹿児島市は除灰作業を開始)	稲などの農作物が収穫できなくなった ^{※2} 、鉄道のポイント故障等により運転見合わせのおそれがある
少量	0.1mm 未満	うっすら積もる 	降っているのがようやくわかる	窓を閉める 火山灰が衣服や身体に付着する 目に入ったときは痛みを伴う	フロントガラスの除灰 火山灰がフロントガラスなどに付着し、視界不良の原因となるおそれがある	航空機の運航不可 ^{※2}

※1 掲載写真は気象庁、鹿児島市、(株)南日本新聞社による
※2 富士山ハザードマップ検討委員会(2004)による想定

この降灰予報について、気象庁では、平成30年(2018年)に発生した草津白根山(本白根山)の噴火災害を踏まえ、長期間噴火がなく常時監視していない火口で噴火が発生した場合も降灰予報を迅速に発表できるよう、処理技術及びシステムを高度化した。これにより、“いかなる火口から噴火が発生しても、降灰予報を迅速に発表することができる”ようになっている。

気象庁では、道路交通分野等における防災対応に降灰予報を一層活用いただけるよう、引き続き迅速かつ的確な発表に努めるとともに、降灰予測の技術の高度化にも取り組む計画である。